



## 第2回 教育部会（令和5年7月4日開催）

### 委員からのご意見

#### 議論のテーマ「西成区の教育環境について」

##### 【読書活動について】

- ・こどもの読書活動推進支援事業について、読書の面白さを感じてもらえるために、本を読んで感じたことや考えたことを子どもたちが発表できる場を作ると良いのではないかと。
- ・こどもの読書活動推進支援事業について、中学生では、学校長に推薦されている生徒が少ない。中学生では1冊の本を読み込み感じたことを文章にするなど、小学生と中学生の内容に変化を加えることも良いのではないかと。
- ・こどもの読書活動推進支援事業について、中学校での学校長推薦者がいないことがもったいないので、学校を巻き込んで一人でも多くの子どもを表彰すべきではないかと。
- ・電子書籍による読書については、夜寝る前、目に光が入ることによる身体への悪影響が懸念される。書籍の媒体は考慮が必要ではないかと。
- ・（意見票）現代の子どもたちは、幼いころから電子機器に触れ、読書環境も変わってきているため、本を読む数を競争することについては、時代に合っているか疑問である。感想文を書いてもらい、良かった人を表彰するのが良い。

##### 【キャリア教育について】

- ・西成区内の小中学校で行っているキャリア教育の全体像を区として整理してみるのもいいのではないかと。
- ・小学校では、西成区について学ぶ機会があると、人権教育などにもつながるのではないかと。西成区について学ぶ際は、区役所もサポートし、学校・区役所・地域が連携してキャリア教育を行っていくことも大事である。
- ・中学校では、職業観について学ぶ機会もでてくるので、子どもたちの身近にあるものを作る企業との繋ぎを行っていくことも大事である。

##### 【不登校について】

- ・地域活動協議会で、夏休みや土曜日に子どもたちの居場所事業を行っている。不登校児童生徒を対象としたものではないが、将来的に不登校になる可能性はあるので、早い段階から子どもたちと地域がつながろうという目的で行っている。しかし、小学校高学年、中学生になると塾やクラブなどで地域と子どもたちが離れていく。中学校での進路選択は人生においても大事なので、中学校では週1回、図書室で保護者や先生に言えないことを地域の人が聞きとり、中学校内の居場所をつくる取り組みを実施している。
- ・地元の小学校に通っていない児童が多く、近所の子どもたちがどこの学校に行っているのかも分からず、保護者とも関わりがない。子どもたちの登校状況を把握できないことが物寂しい。
- ・不登校の子どもとその保護者は、朝になると学校に行くかどうかで言い争いをするとよく聞く。子どもも不登校で苦しんでいるが、親も苦しんでいる。西成区民センター等で開催されている不登校親の会に参加している保護者は仲間がいることで明るくなっている。子どもだけでなく保護者もケアし、保護者から子どもを楽にさせてあげる施策ができると良い。
- ・不登校になる要因は様々であるが、家族の中で何が起きているかということを考える必要がある。不登校の子どもたちの実情を把握しているスクールソーシャルワーカーなどから意見を聞き、世帯全体、子育て環境全体で不登校を考えていく必要もあるのではないかと。
- ・（意見票）コロナの影響もあり不登校が増加していると聞くと、現状が見えてこない。

##### 【その他】

- ・（意見票）会議の日程について、午後2時からという開始時間が欠席者が多い原因となっているのではないかと。

※今回の区政会議では、委員に身近なテーマで様々なご意見をいただきました。いただきましたご意見は、今後の区政の参考とさせていただきます。